



シーナカリンウィロート大学 (SWU)
人文学部日本語学科 (タイ)
アルチャー プーンパタナプリーチャー
Arucha Poonphatanapreecha

<参加した留学プログラム>

明治大学情報コミュニケーション学部による
「学部間交換留学生受入プログラム(2014年度)」

1. いつ日本語の勉強を始めましたか?

私は高校1年生の時、始めました。

2. なぜ日本へ行こうと思いましたか?

どうして日本へ行きたいと思ったかと言うと、日本人ネイティブと同じように流暢に日本語を話したいと思ったからです。そして、日本人とのやり取りや考えや意見交換を通じて自分自身を向上させたいと思ったからです。日本人の心構えや考え方は大変魅力的でした。日本へ行って、そのような機会を得ることができました。

3. なぜ明治大学のプログラムに参加しようと思いましたか?

私が大学2年生の時、明治大学から私の大学に来ていた短期交換留学の学生と知り合いになる機会がありました。この学生たちは私に、明治大学は総合大学であることを教えてくれました。私は勉強がもっとできるし、日本人や留学生と意見交換できる機会があると考えました。私はとても興味を持ち、明治大学のプログラムに参加しました。

4. 明治大学のプログラムで、印象に残っていることはどんなことですか?

明治大学での勉強は私の日本語能力を向上させるのに役立ったばかりでなく、日本人の文化や生活の仕方についても学ぶチャンスがありました。

そのほかに、何が起きているのか、日本社会ですべきこと、してはいけないことなどを学びました。日本滞在中、私はたくさんの日本人の友達ができ、友達と考えや意見を交換しました。こうした経験は自分から友達に話しかける自信とたくましさを与えてくれました。私にとって楽しい毎日でした。

5. このプログラムで学んだことは何ですか。また、将来役に立つことがありますか？

もちろん、私の日本語能力がとても向上したことで、これは将来私が仕事を始める時、私の強みになるでしょう。日本では、私はアルバイトをしましたが、日本人がいかにもじめに厳しく働いているかを見ました。これは会社で仕事するときに絶対役に立ちます。

日本へ行かなかった学生よりも、私はこの貴重な経験を活かすことができ、将来タイで就職活動する時には有利になります。

6. このプログラムの中で推薦できるいい点は何ですか？

できるだけプログラム中の活動へ参加することです。そして、文化のことなどさまざまなテーマについて人々と恐れずに話してみることを勧めます。

私は明治大学の宿舎に住んでいましたので、大学から提供される小旅行の情報を得ることができませんでした。それだけが残念なことでした。

7. 将来どんな仕事に就きたいと思いますか？

タイと日本の両方に関係した仕事がしたいです。

8. 東京とバンコクはどのような点が違いますか。

東京もバンコクも大変便利で人口も多いです。東京の方がより混んでいて慌ただしいです。東京の人々はいつも時間に気にし、また社会秩序を守っています。

<この原稿は明治大学アセアンセンターでご本人にインタビューし作成しました。>

MEIJI UNIVERSITY

明治大学情報コミュニケーション学部が実施する学部間交換留学生受入プログラムの詳細については、次のウェブサイトをご覧ください。<http://www.meiji.ac.jp/infocom/office/exchange.html>